

2023年3月期第2四半期 決算説明会

 **丸一鋼管株式会社**

代表取締役会長兼CEO 鈴木博之

2022年11月

- I. 2023年3月期 第2四半期 決算概要
- II. 足元の事業環境認識
- III. 主要連結子会社の状況
- IV. 2023年3月期 業績予想
- V. 中期経営計画の進捗状況
- VI. トピックス
- VII. 補足資料

I . 2023年3月期 第2四半期 決算概要

2023年3月期第2四半期決算概要

<ポイント>

- 販売数量面では、日本は前年比横ばい、北米の伸び悩み、アジアSUNSCO社の落込みから、全体では新規連結2社(MNT社・MPST社)を加えても前年同期比マイナス。
- 売上高は、各地域セグメントでの製品値上げ効果から、増収を確保。
- 営業利益は、北米は前年同期に製品価格値上げ先行によるスプレッドの改善があったことから減益、アジアはSUNSCO社の在庫評価損の影響等もあり減益なるも、日本の増益幅が大きく、全体では増益を確保。
- 全体では売上高及びいずれの利益も5月公表の上期業績予想は上振れを確保。

【単位：百万円】

	2022年3月期実績			2023年3月期実績			前期比	前期比 (%)	期初予想	予想比
	1Q	2Q	上期 (a)	1Q	2Q	上期 (b)	上期 (b-a)	上期 (b/a)	上期 (c)	上期 (b-c)
売上高	45,612	53,939	99,551	65,541	72,858	138,399	+38,848	+39.0	136,000	+2,399
営業利益	7,735	9,564	17,299	8,789	9,623	18,412	+1,113	+6.4	16,000	+2,412
経常利益	8,651	9,986	18,637	9,777	11,097	20,874	+2,237	+12.0	18,200	+2,674
親会社株主に帰属する当期純利益	6,089	7,364	13,453	6,453	7,493	13,946	+493	+3.7	11,800	+2,146

2023年3月期第2四半期決算 ― セグメント別実績と計画

O1 × 100

【売上高】	2022年3月期実績 (百万円)			2023年3月期 (百万円)			上期前期比		期初計画	上期期初予想比	
	1Q	2Q	上期(a)	1Q	2Q	上期(b)	(b)-(a)	(b)/(a)	上期(c)	(b)-(c)	(b)/(c)
日本	28,738	31,432	60,170	38,529	39,994	78,523	+18,353	+30.5%	78,526	▲3	▲0.0%
北米	9,138	12,386	21,524	16,032	20,111	36,143	+14,619	+67.9%	33,757	+2,386	+7.1%
アジア	7,735	10,122	17,857	10,978	12,755	23,733	+5,875	+32.9%	23,717	+16	+0.1%
調整額	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	45,612	53,939	99,551	65,541	72,858	138,399	+38,848	+39.0%	136,000	+2,399	+1.8%

【営業利益】	2022年3月期実績 (百万円)			2023年3月期 (百万円)			上期前期比		期初計画	上期期初予想比	
	1Q	2Q	上期(a)	1Q	2Q	上期(b)	(b)-(a)	(b)/(a)	上期(c)	(b)-(c)	(b)/(c)
日本	4,653	4,902	9,554	6,971	6,768	13,739	+4,185	+43.8%	11,266	+2,473	+22.0%
北米	2,244	3,344	5,588	778	2,061	2,839	▲2,748	▲49.2%	2,844	▲5	▲0.1%
アジア	775	1,250	2,025	935	686	1,621	▲403	▲19.9%	1,820	▲199	▲10.9%
調整額	62	69	130	104	106	210	+80	+61.2%	70	+140	+201.2%
合計	7,735	9,564	17,299	8,789	9,621	18,412	+1,113	+6.4%	16,000	+2,412	+15.1%

2023年3月期第2四半期決算 一 個別各社の実績 (四半期ベース①) O1×100

【単位：億円】

	売上高						営業利益					
	22/3期				23/3期		22/3期				23/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
丸一鋼管	226.8	249.0	304.7	308.3	312.1	306.7	41.3	34.9	49.0	43.8	54.6	51.6
丸ステンレス	48.8	61.1	67.6	67.0	61.1	77.8	3.4	8.9	12.2	6.7	11.2	11.2
アルファメタル	9.6	9.3	7.8	10.4	9.3	15.4	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲0.2	▲0.1	0.8
その他国内子会社	129.3	139.4	166.8	165.1	179.3	173.5	1.3	5.2	7.4	1.9	3.7	4.9
MKK USA INC.	43.3	63.1	64.8	58.1	75.4	94.3	11.1	19.6	19.4	11.1	7.1	10.0
MNT	-	-	-	5.1	13.9	13.0	-	-	-	▲0.1	▲3.3	▲0.5
MAC	24.3	34.6	40.9	37.7	39.0	55.5	5.4	8.2	8.1	6.2	2.0	7.2
MOST	17.0	20.2	24.7	24.0	23.4	29.2	4.9	4.8	4.8	2.4	▲0.2	1.9
MMX	7.2	6.7	8.7	9.1	9.5	10.3	1.5	1.3	2.3	3.0	2.7	2.4
SUNSCO(含Hanoi)	65.7	84.7	79.6	99.0	85.6	98.3	6.4	10.8	6.6	2.2	7.0	3.4
KUMA	13.9	18.8	19.5	21.8	25.4	30.5	1.3	1.7	1.2	2.1	2.5	3.4
MPST	-	-	-	-	1.5	1.7	-	-	-	-	▲0.1	▲0.0
持分法適用関連会社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	-	0	0	▲7.9	▲2.6	▲0.0	▲0.1
連結調整	▲129.8	▲147.4	▲173.1	▲170.8	▲180.1	▲177.7	1.1	0.4	▲1.0	1.1	0.8	▲0.0
合計	456.1	539.4	612.0	634.7	655.4	728.5	77.3	95.6	109.6	80.2	87.9	96.2

2023年3月期第2四半期決算 一 個別各社の実績 (四半期ベース②) O1×100

【単位：億円】

	経常利益						親会社株主に帰属する当期純利益					
	22/3期				23/3期		22/3期				23/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
丸一鋼管	57.5	41.2	55.7	56.7	73.6	67.7	40.9	29.8	39.8	42.8	52.8	48.8
丸ステンレス	3.4	9.0	12.3	6.6	11.3	11.2	2.0	6.1	8.4	5.0	7.3	7.4
アルファメタル	0.0	▲0.0	▲0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	▲0.2	▲2.9	0.0	0.7
その他国内子会社	4.4	5.5	7.7	2.2	7.9	5.2	3.6	3.3	5.1	1.6	5.6	3.6
MKK USA INC.	11.0	19.9	19.4	11.1	6.9	9.9	9.9	17.6	14.4	16.1	5.8	5.6
MNT	-	-	-	▲0.1	▲3.3	▲0.5	-	-	-	▲0.1	▲3.3	▲0.5
MAC	5.4	8.6	8.1	6.2	2.0	7.4	3.9	6.3	5.8	4.4	1.5	5.3
MOST	4.9	4.8	4.8	2.3	▲0.2	1.9	4.9	4.8	4.8	2.3	▲0.2	1.9
MMX	1.5	1.5	2.2	1.4	2.8	2.3	1.1	1.2	1.9	0.1	2.3	1.4
SUNSCO(含Hanoi)	7.8	11.8	6.2	2.3	9.7	4.5	7.6	11.8	6.1	2.3	9.5	4.6
KUMA	1.3	2.0	1.2	2.1	2.1	3.0	1.1	1.4	0.8	1.5	1.6	2.1
MPST	-	-	-	-	▲0.2	▲0.0	-	-	-	-	▲0.2	▲0.0
持分法適用関連会社	0.8	0.9	1.5	0.7	1.2	0.9	-	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
連結調整	▲11.4	▲5.4	▲2.1	▲10.0	▲16.0	▲3.7	▲14.0	▲8.7	▲3.7	▲13.2	▲18.2	▲6.0
合計	86.5	99.9	116.7	81.5	97.8	110.9	60.9	73.6	83.2	59.8	64.5	74.9

2023年3月期第2四半期決算 一 個別各社の実績（半期ベース①）

O1×100

【単位：億円】

	売上高						営業利益					
	22/3期		23/3期				22/3期		23/3期			
	上期	下期	上期	前期比	期初予想(5月)	予想比	上期	下期	上期	前期比	期初予想(5月)	予想比
丸一鋼管	475.8	613.0	618.8	+143.0	639.0	▲20.2	76.1	92.9	106.1	+30.0	90.0	+16.1
丸ステンレス	109.9	134.6	138.9	+29.0	133.2	+5.7	12.3	18.9	22.4	+10.1	16.1	+6.3
アルファメタル	18.9	18.2	24.7	+5.8	18.9	+5.8	▲0.4	▲0.8	0.7	+1.1	0.3	+0.4
その他国内子会社	268.6	331.9	352.8	+84.2	369.1	▲16.3	6.5	9.3	8.6	+2.1	6.2	+2.4
MKK USA INC.	106.4	122.9	169.7	+63.3	151.0	+18.7	30.6	30.5	17.1	▲13.5	18.4	▲1.3
MNT	-	5.1	26.9	+26.9	27.9	▲1.0	-	▲0.1	▲3.8	▲3.8	▲0.7	▲3.1
MAC	58.9	78.6	94.5	+35.6	86.2	+8.3	13.5	14.2	9.2	▲4.3	3.9	+5.3
MOST	37.3	48.6	52.6	+15.3	52.5	+0.1	9.7	7.2	1.7	▲8.0	2.2	▲0.5
MMX	13.9	17.8	19.8	+5.9	19.9	▲0.1	2.9	5.4	5.1	+2.2	4.6	+0.5
SUNSCO(含Hanoi)	150.4	178.6	183.9	+33.5	195.7	▲11.8	17.2	8.9	10.4	▲6.8	14.5	▲4.1
KUMA	32.7	41.3	55.9	+23.2	37.8	+18.1	3.0	3.3	5.9	+2.9	3.8	+2.1
MPST	-	-	3.2	+3.2	3.7	▲0.5	-	-	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.0
持分法適用関連会社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	-	0.0	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.0	▲0.0
連結調整	▲277.2	▲343.9	▲357.8	▲80.5	▲374.9	+17.1	1.5	0.1	0.8	▲0.7	0.8	+0.0
合計	995.5	1,246.6	1,383.9	+388.4	1,360.0	+23.9	172.9	189.7	184.1	+11.2	160.0	+24.1

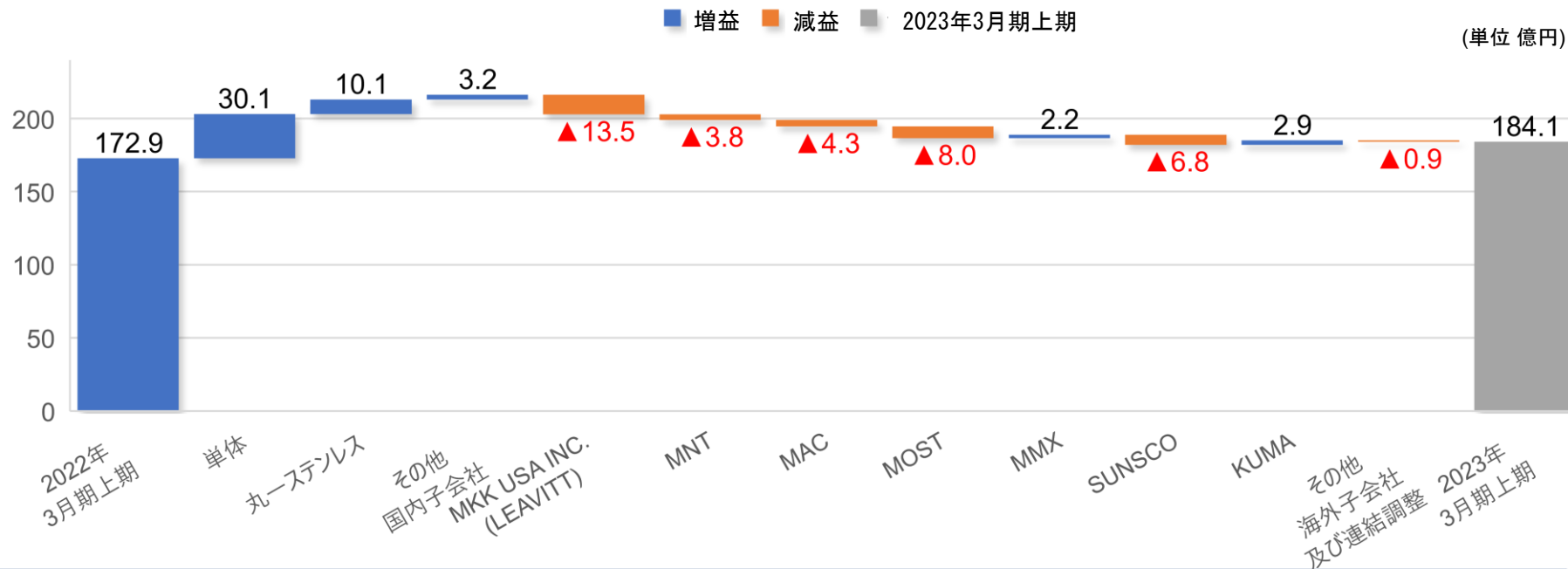
【単位：億円】

	経常利益						親会社株主に帰属する当期純利益					
	22/3期		23/3期				22/3期		23/3期			
	上期	下期	上期	前期比	期初予想(5月)	予想比	上期	下期	上期	前期比	期初予想(5月)	予想比
丸一鋼管	98.7	112.4	141.3	+42.6	121.0	+20.3	70.7	82.6	101.6	+30.9	84.0	+17.6
丸ステンレス	12.4	18.9	22.5	+10.1	16.1	+6.4	8.1	13.4	14.7	+6.6	10.6	+4.1
アルファメタル	0.0	▲0.3	1.1	+1.1	0.5	+0.6	0.0	▲3.1	0.7	+0.7	0.5	+0.2
その他国内子会社	10.0	9.9	13.1	+3.1	10.4	+2.7	6.9	6.8	9.2	+2.3	7.2	+2.0
MKK USA INC.	30.9	30.5	16.8	▲14.1	19.1	▲2.3	27.5	30.5	11.4	▲16.1	15.3	▲3.9
MNT	-	▲0.1	▲3.8	▲3.8	▲0.7	▲3.1	-	▲0.1	▲3.8	▲3.8	▲0.7	▲3.1
MAC	13.9	14.3	9.4	▲4.5	4.0	+5.4	10.2	10.2	6.8	▲3.4	2.8	+4.0
MOST	9.7	7.1	1.7	▲8.0	2.2	▲0.5	9.7	7.1	1.7	▲8.0	2.2	▲0.5
MMX	3.0	3.6	5.1	+2.1	4.7	+0.4	2.3	2.0	3.7	+1.4	3.3	+0.4
SUNSCO(含Hanoi)	19.6	8.5	14.2	▲5.4	16.9	▲2.7	19.4	8.4	14.1	▲5.3	16.6	▲2.5
KUMA	3.3	3.3	5.1	+1.8	3.8	+1.3	2.5	2.3	3.7	+1.2	2.8	+0.9
MPST	-	-	▲0.2	▲0.2	▲0.1	▲0.1	-	-	▲0.2	▲0.2	▲0.1	▲0.1
持分法適用関連会社	1.7	2.2	2.1	+0.4	1.3	+0.8	-	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
連結調整	▲16.8	▲12.1	▲19.7	▲2.8	▲17.2	▲2.5	▲22.8	▲16.9	▲24.2	▲1.4	▲26.5	+2.3
合計	186.3	198.2	208.7	+22.4	182.0	+26.7	134.5	143.0	139.4	+4.9	118.0	+21.4

営業利益の増減要因（22年3月期上期実績→23年3月期上期実績） O1×100

<ポイント>

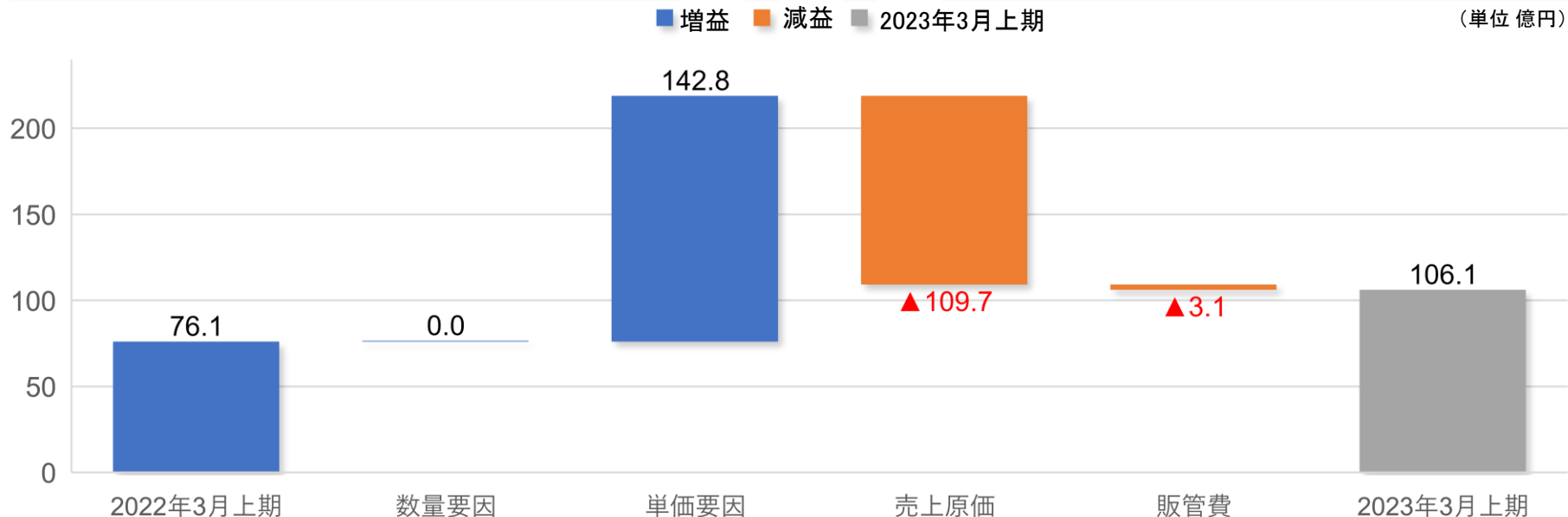
- 単体は昨年値上げが遅れていたユーザー向け追加値上げ及び、農業用GHパイプ、電線管等の値上げを行う。同時に店売りに関して、仕入コイルの転嫁値上げを行った。
- 丸ステンレスは、国内向け一般管及び輸出半導体向けBA管が好調。販売価格改善及びコストダウンもあって増益。
- 米国の前期は製品価格上昇局面でスプレッドが拡大した時期。今期は下落局面で大幅減益。
- SUNSCOホーチミンは、市況の下落で在庫評価損発生により減益。
- MMX、KUMAは部品不足などの影響はあるが、前期よりは状況が改善して増益。



単体営業利益の増減要因（22年3月期上期実績→23年3月期上期実績）01×100

<ポイント>

- 自動車向け出荷は徐々に回復しているものの、中小建築案件の需要低迷から市況は盛り上がりを欠く。
- 総販売数量は360千トンで、前年同期実績と同数量。
- 材料コイル調達価格の上昇に加え、亜鉛等の補助材料や電力料金、運送費など売上原価がコストアップ。
- 引き続き製品価格の値上げに取り組み、総販売単価は前年同期比+30.0%アップ。
- 結果、営業利益は、106.1億円と前年同期比+30.0億円(+39.5%)の増益。



<ポイント>

- 丸一鋼管の構造用鋼管は、前年上期比2.6%の増加ながら、引き続き中小建築案件の需要は低迷。前期は6月からコイル入手タイト化で減産。
- 丸一鋼管の機械構造用は、国内の自動車生産が回復途上であり、前年上期比▲3.4%のダウンと第1Q前期比の▲8.6%から改善。
- 米国は市況の下落局面で当用買いが続いており、MNT以外の3社の上期は前年比マイナス。
- MMXは日系自動車メーカーが中国からの部品及び半導体不足の影響で減産が継続。
- SUNSCOホーチミンはホットコイル下落に伴い製品販売が大きく減少。Hanoiも半導体不足の影響から二輪の減産で減少。
- KUMAは4輪が好調で、コロナ前の水準を超えて増加。

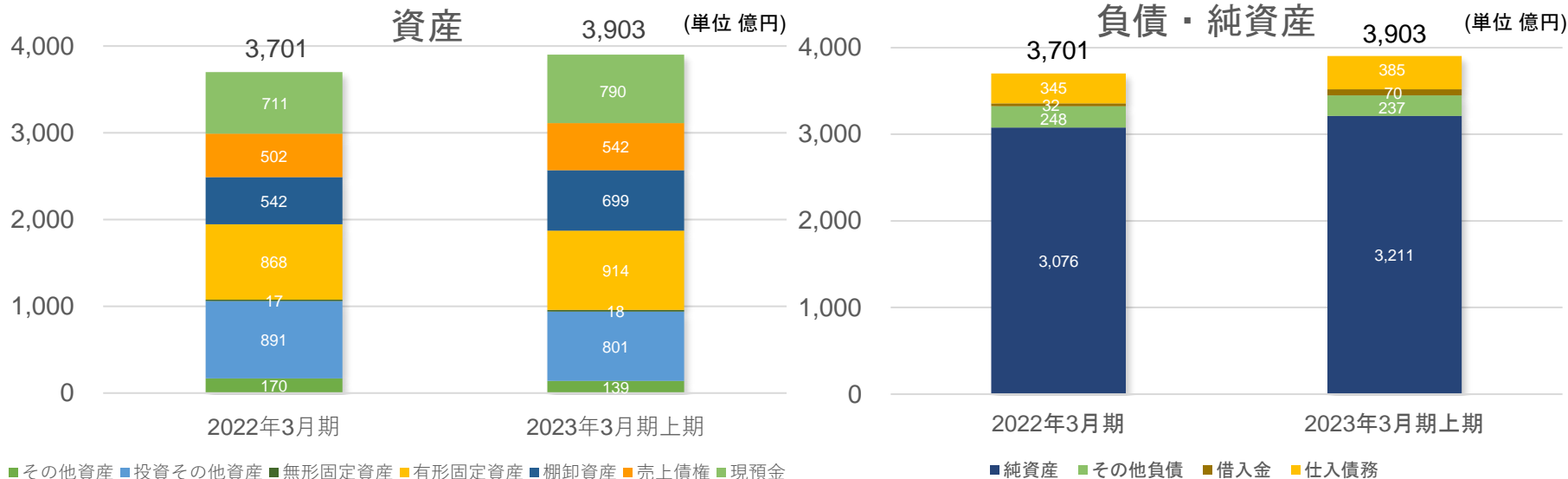
【出荷数量】(千トン)

丸一鋼管 構造用
丸一鋼管 機械構造用
丸一鋼管 その他
米国(4社)
MMX
SUNSCO
KUMA
その他
合計

	四半期ベース						半期ベース			通期ベース
	22/3期				23/3期		22/3期		23/3期	22/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	上期	下期	上期	
丸一鋼管 構造用	108.4	105.0	117.6	104.0	115.0	103.9	213.4	221.6	218.9	435.0
丸一鋼管 機械構造用	36.0	33.9	35.4	36.0	32.9	34.6	69.9	71.4	67.5	141.3
丸一鋼管 その他	40.3	37.1	40.6	44.2	40.5	33.9	77.4	84.8	74.4	162.2
米国(4社)	57.6	60.4	54.6	45.3	60.6	68.2	118.0	99.9	128.8	217.9
MMX	3.5	2.9	3.3	2.9	2.8	2.9	6.4	6.2	5.7	12.6
SUNSCO	64.8	69.6	53.0	63.2	54.6	56.2	134.4	116.2	110.8	250.6
KUMA	5.9	7.6	7.1	7.8	7.6	8.6	13.5	14.9	16.2	28.4
その他	3.4	3.8	4.1	3.9	4.2	4.5	7.2	8.0	8.7	15.2
合計	319.9	320.3	315.7	307.3	318.2	312.8	640.2	623.0	631.0	1,263.2

<ポイント>

- ・ 売上債権の増加（502⇒542億円）は、主に販売単価上昇によるもので、月商比は0.4ヶ月改善（2.7⇒2.3ヶ月）。
- ・ 棚卸資産の増加（542⇒699億円）は、鋼材価格上昇に加え数量増加もあり、月商比は0.1ヶ月悪化（2.9⇒3.0ヶ月）。
- ・ 一方、仕入債務も増加（345⇒385億円）・借入金（32⇒70億円）の増加もあり、現預金は増加（711⇒790億円）。
- ・ 有形固定資産の増加（868⇒914億円）は、減価償却費（30億円）内の設備投資（27億円）なるも、新規連結MPST社及び円安による海外子会社の円換算差額によるもの。（2022年3月期末換算レート 122.39円/US\$, 2022年9月末換算レート 144.81円/US\$）
- ・ 投資その他資産の減少（891⇒801億円）は、主に株価低迷による有価証券評価差額金の減少。
- ・ 純資産は増加（3,076⇒3,211億円）したものの、総資産増加から自己資本比率は若干低下（80.4⇒79.1%）。



配当方針

- 個別損益計算書におけるみなし当期利益（※）の**50%**相当を年間配当とする。
- 但し、安定配当として一株あたり最低年間配当額は**80円**とする。
※みなし当期利益：経常利益 × (1 - 実効税率)
- 2023年3月期の配当は、みなし当期利益の基礎となる単体経常利益を24,950百万円（前年度比18.2%）と見込み、年間109円（前年度比18円増配）を予定します。
- 期初予想の年間106円対比、3円の増配となります。

株主還元の実施状況

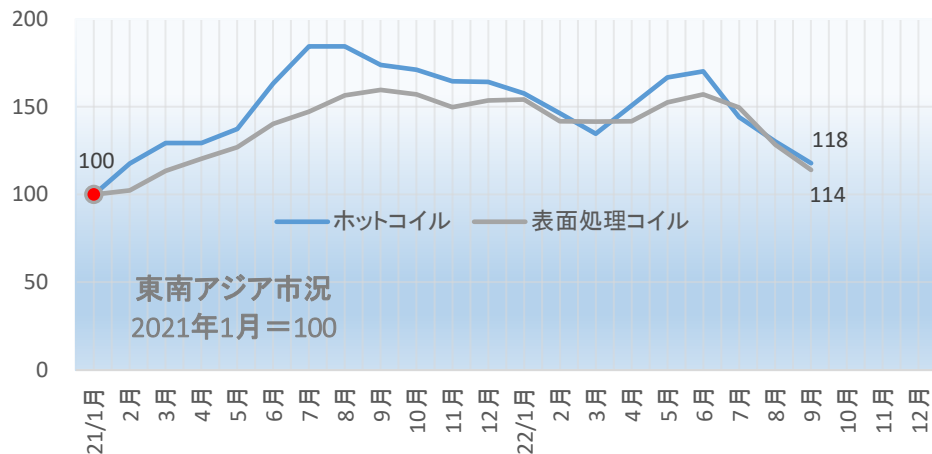
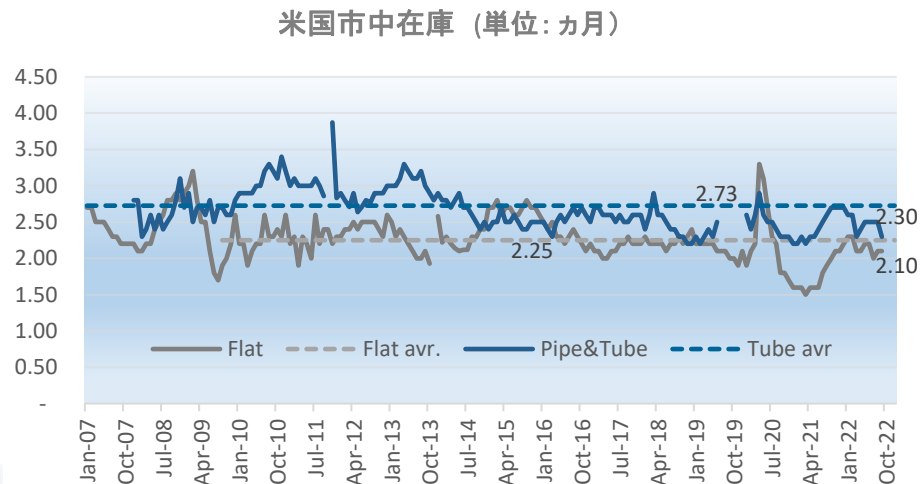
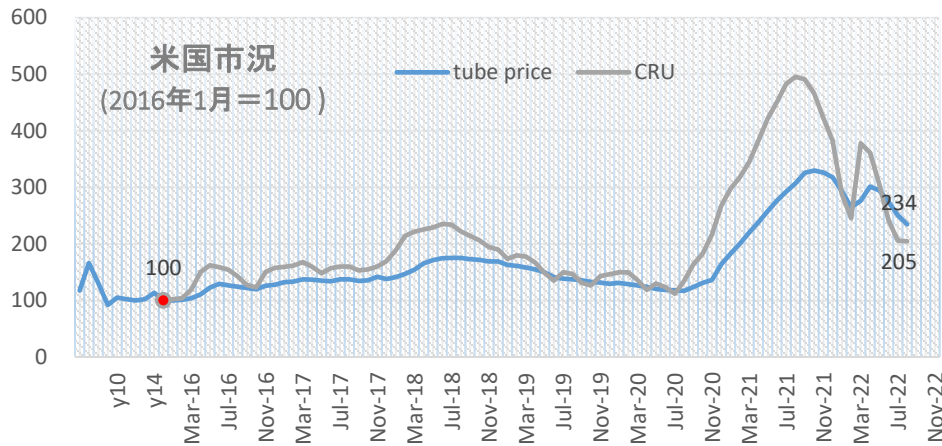
【単位 百万円 ※かっこ内は一株あたり配当、単位:円】

決算期	中間配当額	期末配当額	年間配当額	自社株買い 株数/金額	当期純利益 (単体)	配当性向 (単体)	総還元率 (単体)	[参考] 総還元率 (連結)	ROE (連結)
2020年3月期実績	(40.00) 3,314	(65.50) 5,427	(105.50) 8,741		6,745	129.6%	129.6%	137.5%	2.4%
2021年3月期実績	(25.00) 2,072	(47.50) 3,895	(72.50) 5,967	877千株 1,975百万円	12,435	48.0%	63.9%	57.3%	5.3%
2022年3月期実績	(40.00) 3,280	(51.00) 4,083	(91.00) 7,363	1,960千株 5,323百万円	15,329	48.0%	82.8%	45.7%	9.8%
2023年3月期予想	(40.00) 3,192	(69.00) 5,506	(109.00) 8,698	360千株 1,000百万円	17,650	49.3%	54.9%	44.3%	7.2%

※2020年3月期の1株あたりの配当金には記念配当30円が含まれています。

Ⅱ. 足元の事業環境認識

国内需要	鋼板類	<ul style="list-style-type: none"> 中国からの部品供給は徐々に回復しており、半導体不足の影響はあるものの、下期の国内自動車生産台数は80%程度に回復すると見る。 自動車向け需要増及び販売価格の大幅値上げも達成出来たことから、高炉の我々に対するホットコイルの値上げ圧力は今後も続くと見る。 韓国・台湾ミルは海外市況悪化と安値中国材の自国への流入から日本向け拡大の意図はあるものの円安基調もあり日本向け価格の海外並みへの下げは期待薄。 足元建築・インフラの国内需要は弱い、今後の回復に期待。
	鋼管類	<ul style="list-style-type: none"> 足元、建設需要は弱い。自動車は生産台数回復に期待。 一部メーカーは、現在、価格より数量優先の姿勢。 国内高炉の原材料プラス3万円/トンの値上げ圧力は強い。一方3万円/トンの当社製品値上げアナウンス済だが、一部2万円/トンレベル達成の現状。当面製品価格維持に注力。
海外の状況	中国	<ul style="list-style-type: none"> 主要都市のロックダウン解除から自動車の生産活動は徐々に回復しているが、ゼロコロナ政策継続による再ロックダウンの懸念あり。不動産不振等。経済活動不安定。 当社子会社MMPで待遇改善要求発生。合意済だがコストアップ。日系自動車部品メーカーの中国製鋼管採用が拡大方向にあり対応検討中。 国内の需要は弱く輸出増及び値下げが顕著。
	ベトナム/米国/他	<ul style="list-style-type: none"> ベトナム：引続き市況は中国の影響を受けて弱含み。期待していた中国国慶節明けの中国国内需要回復も期待外れに終わり、元安による中国の安値輸出増の懸念も継続しており建材需要は低迷。市況はほぼ底を打ったと考えるが、需要が回復しておらず、高い原料在庫の消化に時間を要している。 インド：経済が順調で四輪車の需要は回復したと考える。 米国：急激な金融引き締めの影響が建材需要に顕著に表れており、問屋等は在庫縮小に躍起になっている状況で、当座買いに徹している。CRUは4月に今年のピーク\$1,473/ST(\$1,624/MT)を記録した後断続的な下げ局面となっている。相場はほぼ底を打ったと思われるが買い気は弱く市況を大きく改善する程の勢いが感じられない。原料・製品在庫圧縮を急ぎ採算維持・改善に注力する。
主要需要分野の活動状況	建設	<ul style="list-style-type: none"> 当社製品の分野である中小建築物は弱い状態が続く。鉄鋼製品値上りを背景に建設投資縮少の懸念有り。
	自動車/造船	<ul style="list-style-type: none"> 国内自動車の下期生産台数はある程度(80%レベル)回復すると見込む。 世界的に環境規制を意識したEV・FCV化が加速しつつあり、対応検討開始。 造船はLNG次にアンモニア燃料船へと移行する兆しあり、将来の水素需要の拡大と併せステンレス鋼管需要が拡大すると見る。



- 米国はコイル値下げが鋼管のそれを上回るスピードで進行中。
- 一方市中在庫はコイル、鋼管ともに過去平均（それぞれ2.25ヵ月と2.73ヵ月）を下回るレベル。年末に向け更に市中在庫を落とす動きが顕在化すると思われる。
- 東南アジアはホットコイルと表面処理コイルレベルほぼ同じペースで推移。

Ⅲ. 主要連結子会社の状況

丸一鋼管株式会社

- 販売数量は前年比2%、計画比5%程度未達ながら、売上は前年比35%程度増。利益面は在庫評価益もあり前年比220%、計画比140%程度大幅に増加。
- 季節的な需要期に入り、切断加工設備のある12営業所でカットコラム拡販に一層注力。
- 倉庫の在庫保有能力を活かし、引き続き各地で客先の当用買いに対応し拡販を目指す。

業績の推移

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年2月期実績	37,804	745
同1Q実績	8,229	3
同2Q実績	8,623	180
同3Q実績	10,665	437
同4Q実績	10,287	125
2023年2月期期初計画	47,504	433
2023年2月期修正計画	45,714	1,060
同1Q実績	11,505	211
同2Q実績	11,339	383

丸ーステンレス鋼管株式会社

- 国内一般管の値上げは出未だが足元需要は下降。輸出一般管は円安の恩恵を受け採算改善。
- BA管は半導体向けが好調で22年10月に20万本/月体制が完了。足元価格改善。23年春以降の25万本/月体制へ設備増強中。24年1Q以降はテキサス工場稼働分も加え34万本/月体制増強に邁進。

業績の推移

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2022年3月期実績	24,447	3,118
同1Q実績	4,878	335
同2Q実績	6,111	890
同3Q実績	6,759	1,225
同4Q実績	6,699	667
2023年3月期期初計画	27,270	3,480
2023年3月期修正計画	30,478	4,578
同1Q実績	6,108	1,124
同2Q実績	7,776	1,113

LEAVIT社・MNT社 (米国)

- LEAVITT: 上期は販売・利益ともに堅調に推移し、年間予算を上回るペースで進捗。一方下期に入り原料となるコイル市況は急激な下げ局面となっており、足元市況回復の勢いも弱い。
- MNT: スプレッドの維持が課題。販路の更なる拡大や不採算取引の見直し等を進め 発展的な収益健全化を目指す。

MAC社 (米国)

- MAC: 年間予算を上回るペースで堅調に推移。足元市況は全面的に下げ局面なるも原料となるコイルの下げ幅より鋼管市況のそれは小幅となっており、スプレッドは依然健全。
ただし弱含み市況が続いた場合先行するコイル市況の悪影響が鋼管市況にも及ぶことから、下期の販売数量とスプレッドの維持、在庫量の適正化に注力。
- MOST: カナダマーケットが不調。米国マーケットでの拡販努力とユーザー販売の条件見直しに着手。

MOST社 (米国)

業績の推移

(単位: 百万US\$ 今期換算レート 期初計画:120円/\$、1Q実績:116.20円/\$、2Q実績:122.89円/\$ 修正計画:131円/\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	199	56
同1Q実績	39	10
同2Q実績	55	18
同3Q実績	56	18
同4Q実績	53	10
2022年12月期期初計画	255	11
2022年12月期修正計画	256	6
同1Q実績	73	3
同2Q実績	79	8

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	125	25
同1Q実績	23	5
同2Q実績	32	8
同3Q実績	37	7
同4Q実績	33	5
2022年12月期期初計画	140	7
2022年12月期修正計画	134	10
同1Q実績	33	2
同2Q実績	43	6

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	76	15
同1Q実績	15	4
同2Q実績	18	5
同3Q実績	22	4
同4Q実績	21	2
2022年12月期期初計画	89	5
2022年12月期修正計画	68	1
同1Q実績	20	▲0
同2Q実績	21	1

MMX社 (メキシコ)

- サプライチェーンの混乱による影響は依然としてあるものの、徐々に販売量は回復しつつあり上期予算の進捗は順調。
- 下期も引き続き状況改善に向かう事が期待され、通期の利益確保により予算達成に注力する。

SUNSCO社 (ベトナム)

- 中国市況軟化の影響を受け広範囲のアジア市況が上期終盤で大きく下落。大幅な受注減で年間予算進捗でも半期実績で下振れした。市況低迷により需要も弱く、状況改善にはまだ時間を要する可能性あり。下期では国内鋼板販売の強化や遠隔地(米欧)への輸出取組み等を強化し、在庫水準の最適化と合わせて体制立て直しを急ぐ。
- 本体の連結決算上は、過去の設備減損による減価償却費減少分がベトナム基準利益に加算されます。(2021年度970万USD、2022年度USD 960万USD)

KUMA社 (インド)

- インド景気は順調。サプライチェーンの影響はあるものの需要は堅調で上期は年間予算を上回るペースで進捗。下期も現時点では大きなネガティブ要素は想定していない。
- 四輪需要はSUV等販売が好調。一方小型四輪や二輪は販売数量が伸び悩んでいる。KUMA社としては販売が伸びている。

業績の推移 (単位: 百万US\$ 今期換算レート 期初計画:120円/\$、1Q実績:116.20円/\$、2Q実績:122.89円/\$ 修正計画:131円/\$)

	売上高	営業利益
2021年12月期実績	29	6
同1Q実績	7	2
同2Q実績	6	1
同3Q実績	8	2
同4Q実績	8	1
2022年12月期期初計画	31	5
2022年12月期修正計画	30	6
同1Q実績	8	2
同2Q実績	8	2

ベトナム基準	売上高	営業利益
2021年12月期実績	299	14
同1Q実績	62	4
同2Q実績	78	8
同3Q実績	72	3
同4Q実績	87	▲1
2022年12月期期初計画	361	15
2022年12月期修正計画	274	▲6
同1Q実績	74	4
同2Q実績	76	0

	売上高	営業利益
2022年3月期実績	62	6
同1Q実績	13	1
同2Q実績	17	2
同3Q実績	17	1
同4Q実績	15	2
2022年12月期期初計画	66	6
2022年12月期修正計画	68	7
同1Q実績	20	2
同2Q実績	22	2

IV. 2023年3月期 業績予想

2023年3月期業績予想

<諸前提>

- 下期の販売数量面は、単体は需要回復が期待薄で、前年度同期比約▲4%、北米は新規連結MNTを除いて前年同期比ほぼ横ばい、アジアはベトナムSUNSCO社の低迷から前年同期比マイナスで、全社で前年同期比▲2%程度の見通し。
- 利益面では、日本は単体では下期は期初予想を下回るものの、年間では期初予想を上回る過去最高益の見通しで、丸ステンレス鋼管は上期・下期・年間共に期初予想を上回る見通し。
- 北米では、昨年買収したMNT社の赤字が予想され、収益改善化を目指す。
- アジアは中国市況の影響を受け業績が低迷。
- 全社では、期初計画の見直しを行った。

【単位：百万円】

	2022年3月期実績			2023年3月期			前年同期比(%)			期初 予想	期初 予想比
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想	上期	下期	通期	通期	通期
売上高	99,551	124,667	224,218	138,399	135,701	274,100	+39.0	+8.9	+22.2	279,200	▲5,100
営業利益	17,299	18,977	36,276	18,412	12,988	31,400	+6.4	▲31.6	▲13.4	32,100	▲700
経常利益	18,638	19,821	38,458	20,874	13,726	34,600	+12.0	▲30.8	▲10.0	34,900	▲300
親会社株主に帰属 する当期純利益	13,454	14,307	27,760	13,946	7,954	21,900	+3.7	▲44.4	▲21.1	22,600	▲700

2023年3月期決算一セグメント予想

O1×100

【売上高】	2022年3月期実績 (百万円)			2023年3月期 (百万円)			通期前期比		期初予想	通期期初予想比	
	上期	下期	通期(a)	上期実績	下期予想	通期予想(b)	(b)-(a)	(b-a)/(a)	通期(c)	(b)-(c)	(b-c)/(c)
日本	60,170	75,936	136,106	78,523	84,159	162,682	+26,576	+19.5%	165,766	▲3,084	▲1.9%
北米	21,524	27,176	48,699	36,143	28,658	64,801	+16,102	+33.1%	61,849	+2,952	+4.8%
アジア	17,857	21,555	39,412	23,733	22,884	46,617	+7,205	+18.3%	51,585	▲4,968	▲9.6%
調整額	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	99,551	124,667	224,218	138,399	135,701	274,100	+49,882	+22.2%	279,200	▲5,100	▲1.8%

【営業利益】	2022年3月期実績 (百万円)			2023年3月期 (百万円)			通期前期比		期初予想	通期期初予想比	
	上期	下期	通期(a)	上期実績	下期予想	通期予想(b)	(b)-(a)	(b-a)/(a)	通期(c)	(b)-(c)	(b-c)/(c)
日本	9,554	11,946	21,500	13,739	12,899	26,638	+5,138	+23.9%	24,706	+1,932	+7.8%
北米	5,588	5,640	11,228	2,839	178	3,017	▲8,211	▲73.1%	3,364	▲347	▲10.3%
アジア	2,025	1,221	3,246	1,621	▲124	1,497	▲1,749	▲53.9%	3,779	▲2,282	▲60.4%
調整額	130	170	300	210	38	248	▲52	▲17.3%	251	▲3	▲1.2%
合計	17,299	18,977	36,276	18,412	12,988	31,400	▲4,876	▲13.4%	32,100	▲700	▲2.2%

2023年3月期 一 個別各社の予想①

O1×100

【単位：億円】

	売上高								営業利益							
	22/3期実績			23/3期			同期初予想		22/3期実績			23/3期			同期初予想	
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想(a)	通期予想(b)	(a-b)	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想(a)	通期予想(b)	(a-b)
丸一鋼管	475.8	613.0	1,088.8	618.8	657.2	1,276.0	1,358.0	▲82.0	76.1	92.9	169.0	106.2	96.3	202.5	200.0	+2.5
丸一ステンレス	109.9	134.6	244.5	138.9	165.9	305.8	272.7	+32.1	12.3	18.9	31.2	22.4	23.4	45.7	34.8	+10.9
アルファメタル	18.9	18.2	37.1	24.7	22.8	47.5	37.4	+10.1	▲0.4	▲0.8	▲1.2	0.7	0.6	1.3	0.6	+0.7
その他国内子会社	268.6	331.9	600.5	352.8	361.8	714.6	735.8	▲21.2	6.5	9.3	15.8	8.6	8.2	16.8	11.6	+5.2
MKK USA INC.	106.4	122.9	229.3	169.7	121.0	290.7	257.5	+33.2	30.6	30.6	61.2	17.1	▲2.5	14.6	12.5	+2.1
MNT	-	5.1	5.1	26.9	23.4	50.3	48.2	+2.1	-	▲0.1	▲0.1	▲3.8	▲3.7	▲7.5	0.5	▲8.0
MAC	58.9	78.6	137.5	94.5	81.4	175.9	168.4	+7.5	13.5	14.3	27.8	9.2	4.1	13.3	8.2	+5.1
MOST	37.3	48.6	85.9	52.6	38.3	90.9	106.9	▲16.0	9.7	7.2	16.9	1.7	0.3	2.0	6.1	▲4.1
MMX	13.9	17.8	31.7	19.8	20.3	40.1	37.5	+2.6	2.9	5.3	8.2	5.1	2.7	7.8	6.3	+1.5
SUNSCO(含Hanoi)	150.4	178.5	328.9	183.9	175.3	359.2	430.6	▲71.4	17.2	8.9	26.1	10.4	▲5.6	4.8	29.5	▲24.7
KUMA	32.7	41.3	74.0	55.9	42.0	97.9	75.6	+22.3	3.0	3.4	6.4	5.9	3.8	9.7	7.6	+2.1
MPST	-	-	-	3.2	5.9	9.1	9.7	▲0.6	-	-	-	▲0.1	0.5	0.4	0.8	▲0.4
持分法適用関連会社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.0	▲0.1	▲0.1	+0.0
連結調整	▲277.3	▲343.9	▲621.2	▲357.8	▲358.3	▲716.1	▲746.3	+30.1	1.5	0.0	1.5	0.8	1.8	2.6	2.6	▲0.0
合計	995.5	1,246.6	2,242.1	1383.9	1357.1	2,741.0	2,792.0	▲5,100	172.9	189.8	362.7	184.1	129.9	314.0	321.0	▲7.0

2023年3月期 一個別各社の予想②

O1×100

【単位：億円】

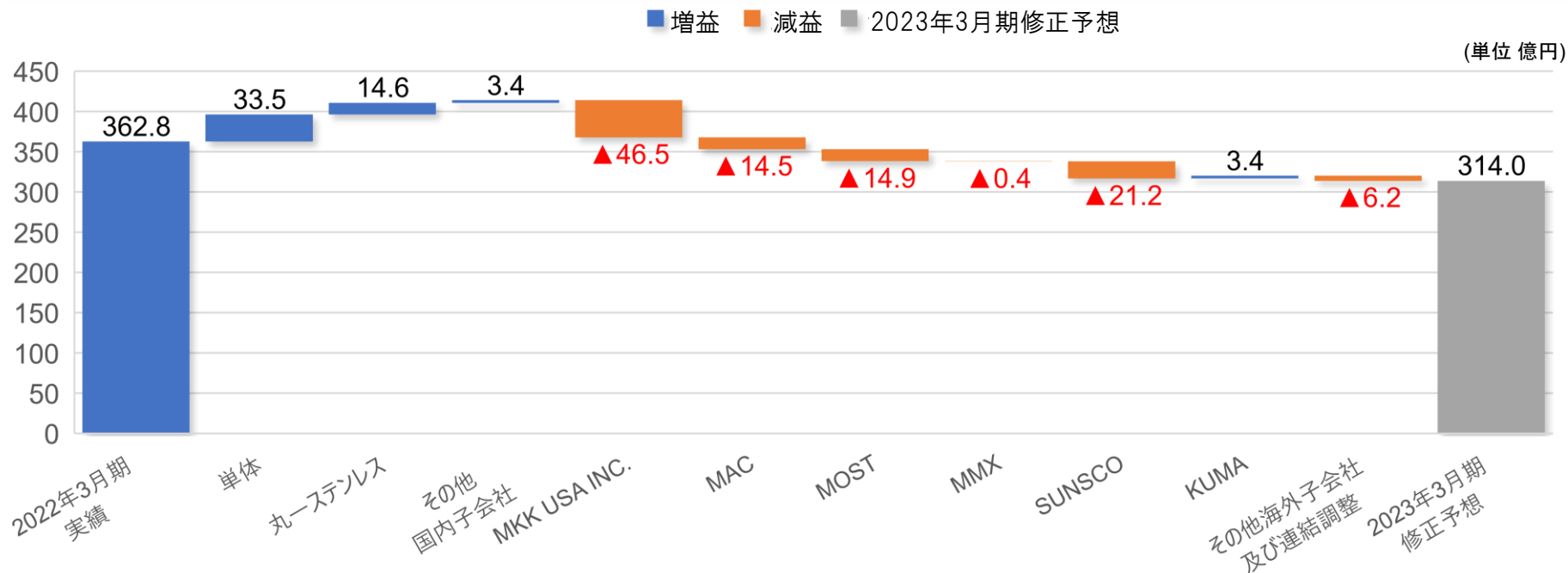
	経常利益							
	22/3期実績			23/3期			同期初予想	
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想(a)	通期予想(b)	(a-b)
丸一鋼管	98.7	112.4	211.1	141.3	108.2	249.5	242.5	+7.0
丸ステンレス	12.4	18.9	31.3	22.5	23.3	45.8	34.9	+10.9
アルファメタル	0.0	▲0.2	▲0.2	1.1	0.7	1.8	1.0	+0.8
その他国内子会社	10.0	9.8	19.8	13.1	8.6	21.7	16.2	+5.5
MKK USA INC.	30.9	30.5	61.4	16.8	▲0.6	16.2	13.9	+2.3
MNT	-	▲0.1	▲0.1	▲3.8	▲3.7	▲7.5	0.4	▲7.9
MAC	13.9	14.3	28.2	9.4	4.4	13.8	8.3	+5.5
MOST	9.7	7.1	16.8	1.7	0.2	1.9	6.1	▲4.2
MMX	3.0	3.6	6.6	5.1	2.7	7.8	6.5	+1.3
SUNSCO(含Hanoi)	19.6	8.5	28.1	14.2	▲5.8	8.4	31.6	▲23.2
KUMA	3.3	3.3	6.6	5.1	3.8	8.9	7.5	+1.4
MPST	-	-	-	▲0.2	0.3	0.1	0.7	▲0.6
持分法適用関連会社	1.7	2.2	3.9	2.1	10.5	12.6	11.9	+0.7
のれん代	-	-	-	-	-	-	-	-
連結調整	▲16.9	▲12.1	▲29.0	▲19.5	▲15.7	▲35.2	▲32.5	▲2.7
合計	186.3	198.2	384.5	208.7	137.3	346.0	349.0	▲3.0

	親会社株主に帰属する当期純利益							
	22/3期実績			23/3期			同期初予想	
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想(a)	通期予想(b)	(a-b)
丸一鋼管	70.7	82.6	153.3	101.6	74.9	176.5	168.0	+8.5
丸ステンレス	8.1	13.4	21.5	14.7	15.4	30.1	22.5	+7.6
アルファメタル	0.0	▲3.1	▲3.1	0.7	0.5	1.2	1.0	+0.2
その他国内子会社	6.9	6.7	13.6	9.2	6.0	15.2	11.3	+3.9
MKK USA INC.	27.5	30.5	58.0	11.4	1.2	12.6	10.1	+2.5
MNT	-	▲0.1	▲0.1	▲3.8	▲3.7	▲7.5	0.4	▲7.9
MAC	10.2	10.1	20.3	6.8	3.2	10.0	5.8	4.2
MOST	9.7	7.1	16.8	1.7	0.2	1.9	6.1	▲4.2
MMX	2.3	2.0	4.3	3.7	1.9	5.6	4.5	+1.1
SUNSCO(含Hanoi)	19.4	8.5	27.9	14.1	▲6.5	7.6	31.0	▲23.4
KUMA	2.5	2.3	4.8	3.7	2.9	6.6	5.6	+1.0
MPST	-	-	-	▲0.2	0.3	0.1	0.7	▲0.6
持分法適用関連会社	-	-	-	-	-	-	-	-
のれん代	-	-	-	-	-	-	-	-
連結調整	▲22.8	▲16.9	▲39.7	▲24.1	▲16.8	▲40.9	▲41.0	+0.1
合計	134.5	143.1	277.6	139.4	79.6	219.0	226.0	▲7.0

営業利益の増減要因（22年3月期実績→23年3月期修正予想）

<ポイント>

- 単体は数量は微減ながら、上期中に上昇するコイル価格の製品への転嫁に取り組んだことにより増益を見込む。
- 丸ステンレス鋼管は、設備増強により旺盛なBA管需要にこたえており増益を計画。
- 北米はウクライナ侵攻後に反転した市況下落のため、減益は避けられず。
- アジアはSUNSCOが中国の市況悪化の影響でベトナム国内価格が下がっており、在庫評価損計上で減益見込み。
- KUMAはコロナ前のピークを上回るレベルまで出荷量が増加しており、増益確保見込み。



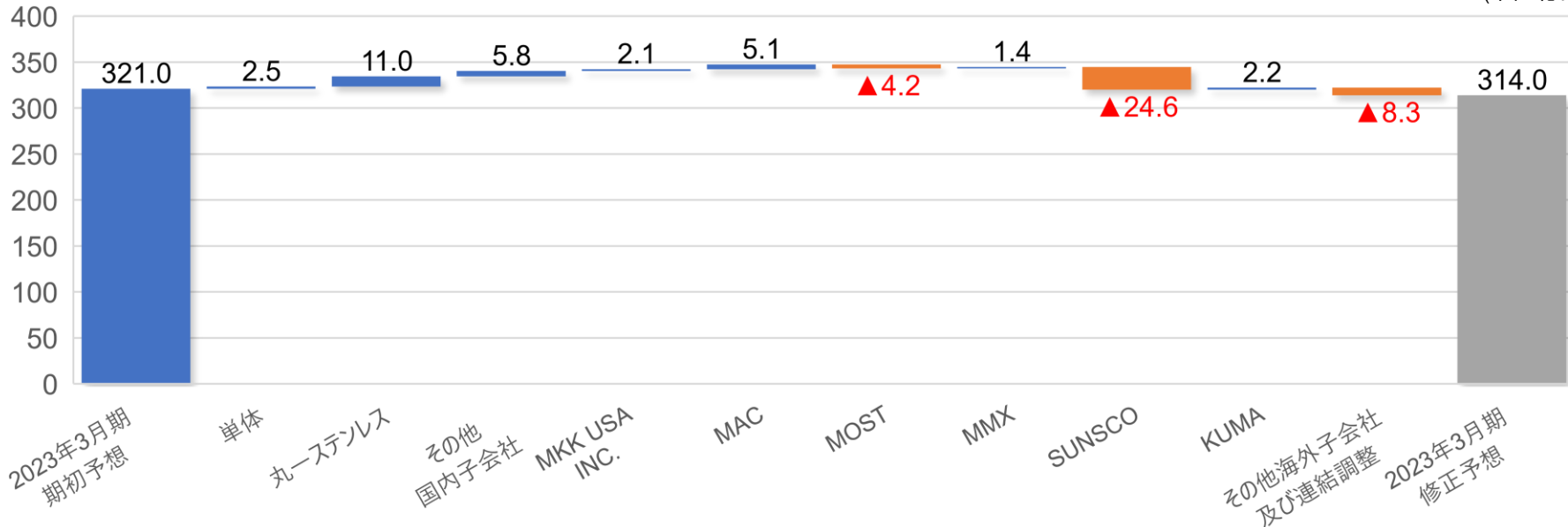
営業利益の増減要因（23年3月期：期初予想→修正予想）

<ポイント>

- 単体は需要が弱く数量減となるが、スプレッドの維持に注力し通期で期初予想比プラスを見込む。
- 丸ステンレス鋼管も、引き続き半導体向けBA管が好調でプラスとなる見込み。
- 米国コイル市況はウクライナ情勢で急上昇した後反転したが、製品価格の下落が緩やかで期初予想比プラス見込み。
- SUNSCOは中国経済低迷の影響でベトナム市況が悪化し、在庫評価損の発生がマイナス影響。
- 連結は減益となるが、中計目標は達成を見込む。

■ 増益 ■ 減益 ■ 2023年3月期修正予想

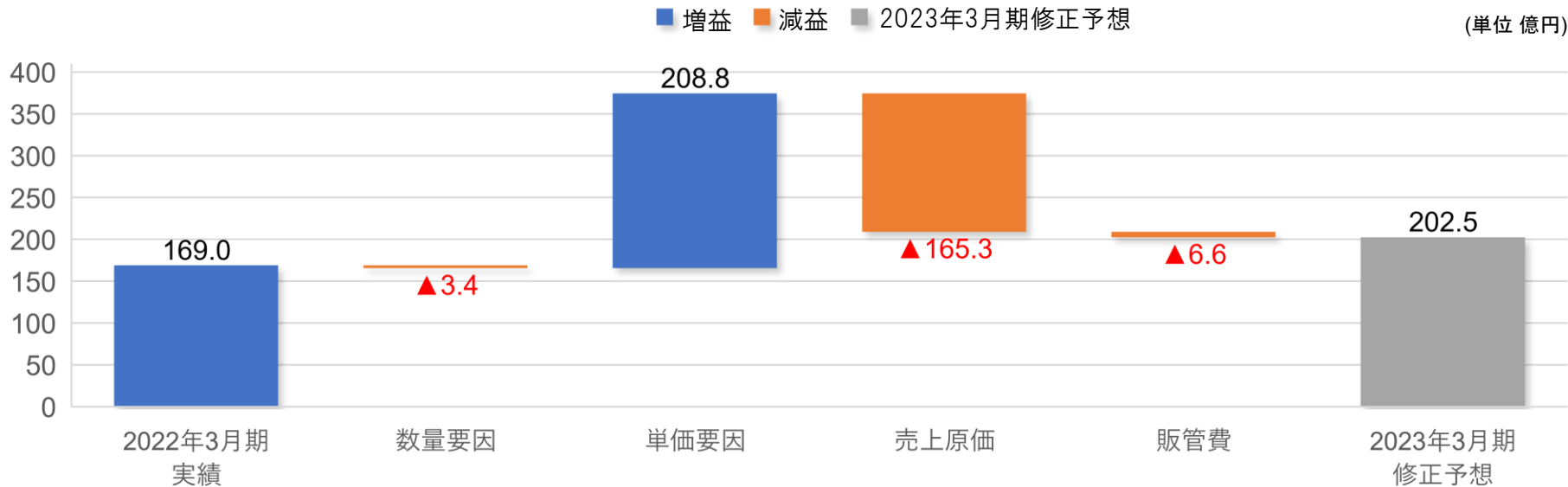
(単位 億円)



単体の営業利益の増減要因（22年3月期実績→23年3月期修正予想）〇1×1〇

<ポイント>

- 下期は建築分野は厳しい状況が続くとみており、自動車生産はある程度回復するも、年間の販売予定数量は前年度微減見通し。（723千トン、▲2.0%）
- コロナ前の2020年3月期比では▲11.8%の水準と依然コロナ前までは回復せず。
- 海外のコイル価格はウクライナ侵攻の影響により上昇した後、インフレ進行による需要減もあって大きく下落しているが、円安と国内高炉の政策で国内市況は高止まっている。当社はスプレッド確保に注力する。
- 亜鉛等の副資材原材料調達やエネルギーや燃料コスト増は下期も続くとみられ、工場の生産性向上などのコストダウンに取り組む。

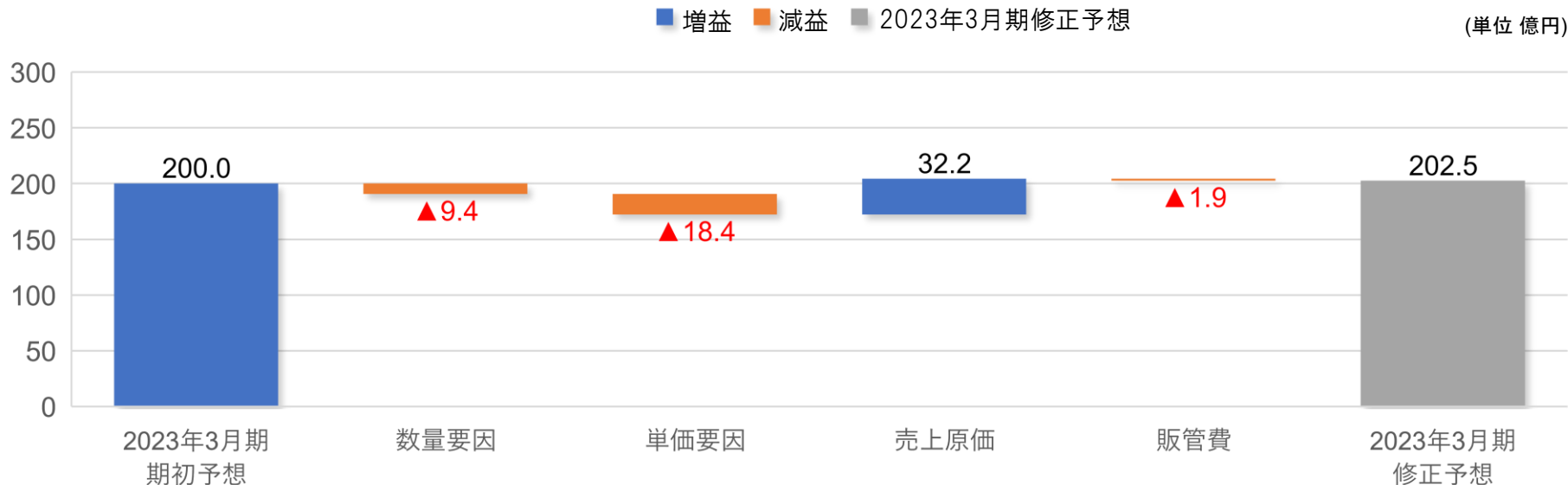


単体の営業利益の増減要因（23年3月期：期初予想→修正予想）

01 × 100

<ポイント>

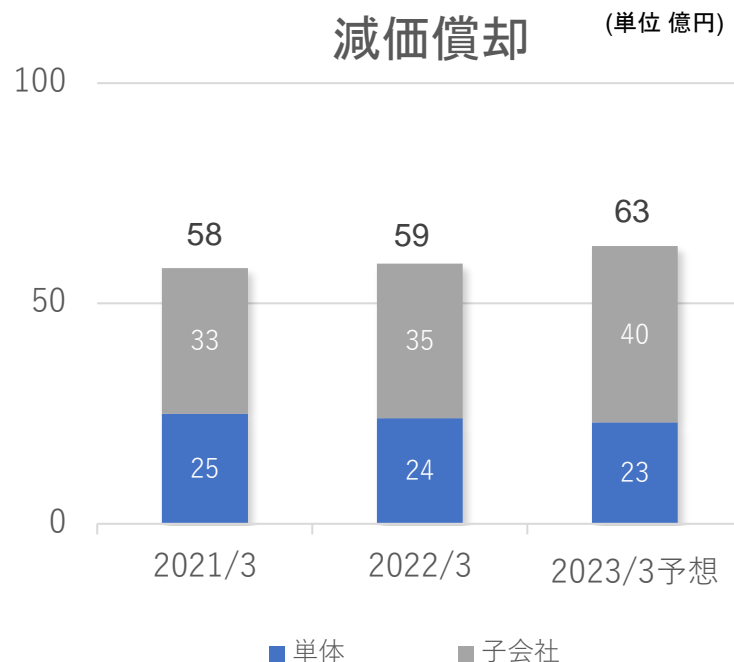
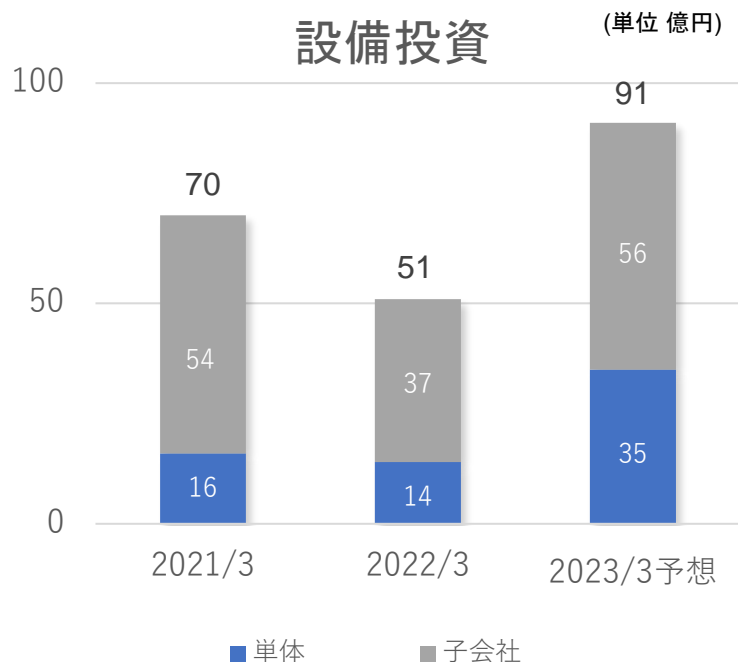
- 建築向け製品需要が厳しい見通しから、総販売数量を期初予想の759千トンから724千トンへ4.7%減少させた。
- 下期のコイル価格は、国内及び海外共に期初予想ほどの上昇は無いと見てスプレッドは上期並としているが、亜鉛等の間接材料費やその他製造コストはアップ。
- 総販売単価は、コイル価格の上昇が予想を下回ったことに合わせたもの。
- 販管費は燃料代の上昇を受けて運送費等のコストアップを予想。



設備投資額及び減価償却費の推移（連結及び単体）

<ポイント>

- 2023年3月期上期の主な設備投資は、丸ステンレスBA管増強投資3.2億円、丸一鋼販浜松営業所切断機1.1億円、四国丸一鋼管橋工場6号機1.1億円など。
- 2023年3月下旬期の主な設備投資予定は、丸ステンレステキサス土地等14.9億円、丸ステンレスBA管増強投資10.5億円、同独自寮3.2億円、丸一鋼管鹿島工場拡縮管加工機5.4億円、同堺工場SR仕上げ更新4億円、同名古屋工場次世代造管機3.0億円など。



V. 中期経営計画の進捗状況

「第6次中期経営計画」目標と進捗

<ポイント>

2022年3月期は売上高・営業利益・営業利益率・ROE・株主還元率の全項目目標を達成。

2023年3月期も同様、国内外に売上高、営業利益、ROE、株主還元率は第6次中計の数値達成を目標に取り組む。

第6次中期経営計画目標と2021年度実績、2022年度予想

	全体			国内連結			内単体			海外連結		
	目標	2022/3 実績	2023/3 予想	目標	2022/3 実績	2023/3 予想	目標	2022/3 実績	2023/3 予想	目標	2022/3 実績	2023/3 予想
売上高 (億円)	2,000	2,242	2,741	1,300	1,361	1,626	1,050	1,089	1,276	700	881	1,115
営業利益 (億円)	260	363	314	195	218	266	160	169	202	65	145	48
営業利益率	13.0%	16.2%	11.5%	15.0%	16.0%	16.4%	15.2%	15.5%	15.9%	9.3%	16.4%	4.3%
ROE	6.5%	9.8%	7.2%									
株主還元率	50%	82.8%	54.9%									
環境目標	国内グループで2030年に46%（2014年3月期比）CO2排出量削減に向けて、省エネ、低炭素燃料への転換等に取り組み、2024年3月期で30%（2014年3月期比）削減する。											

営業利益率目標

	目標	2022/3 実績	2023/3 予想
単体	15.0%	15.5%	15.9%
丸ーステンレス	10.0%	12.8%	15.0%
LEAVITT	5.0%	26.7%	5.0%
MAC	10.0%	20.2%	7.6%
MOST	10.0%	19.7%	2.1%
MMX	10.0%	25.9%	19.4%
SUNSCO	10.0%	7.9%	1.4%
KUMA	10.0%	8.6%	9.9%

■ 国内販売数量の回復と好収益体質の維持と設備投資

- ・販売量回復と丸ステンレス分の上乗せにより過去最高水準の売上規模を目指す
- ・堺、東京、名古屋、九州工場での設備更新改修投資など合計168億円の設備投資



- ① 丸ステンレス分の上乗せ、北米事業の好調等の要因により2021年度は連結売上高、営業利益共に過去最高を更新。需要が弱含みであり、販売数量増加より販売価格維持を優先する状況。
- ② 設備投資は、設備更新を中心として計画通りに進捗。

■ デジタル化の一層の推進による生産性の向上

- ・IoTを活用した生産ライン稼働データの自動収集、分析システムの全工場への展開
- ・生産現場における検査、品質管理の全自動化への取り組み
- ・DXを活用した営業業務のWeb化、電子化の推進
- ・AI/RPAを活用した事務システムの本格運用と利用範囲拡大



- ① IoTを活用した生産ライン稼働データの自動収集、分析システムを全工場へ展開済。今後更に内容アップデート予定。
- ② 生産現場における検査、品質管理の全自動化へ向けデータ採取、トライアル実施中。
- ③ 営業業務のWeb化、電子化の推進は80~90%実施済。今中計期間中に100%を目指す。
- ④ AI/RPAを活用した事務システムにより約25作業を効率化済み。今後も各部署の要望に応じて効率化を推進。また、販売業務に関して次期システムの構築を推進中。

■ 丸ステンレスの収益向上

- ・営業利益率10%を目標
- ・半導体/自動車向けのBA管の生産能力増強及び自動化による生産性向上



- ① 不採算取引の見直しや半導体用BA管が好調であったことから2021年度に営業利益率12.8%を達成。
- ② 旺盛な半導体用BA管の需要増に対応する為、国内BA管生産能力を2023年に年間25万本に、2024年には米国MST-X社の年間9万本と併せ、BA管生産能力は年間34万本体制とする。

■ グループ企業間のシナジー効果

- ・丸ステンレス、東洋特殊鋼業、アルファメタル、丸一鋼販等のシナジー効果の発揮



- ① 丸一鋼販、東洋特殊鋼業による丸ステンレス製品の共同配送等を一部協業開始。
- ② アルファメタルによる東洋特殊工業生産設備効率化実施中。
- ③ 丸ステンレス生産設備合理化にアルファメタルが協力。
- ④ 東洋特殊工業がアルファメタルに製品加工を一部移管。

■ 環境課題への取組

- ・ESGレポートの作成。ゼロカーボン対応の国内関連会社及び海外現法への展開



- ① ESGレポートを作成し毎年更新。（2022年8月に2022年度版を発行）国内外関連会社のゼロカーボン対応については、各国の方針、各社の排出量を調査済み。今後、具体的な活動内容を決定。
- ② 2023年度に統合報告書へ移行準備開始。

■ 人材活用、海外現地人材育成

- ・女性人材、海外人材の活用に引き続き注力



- ① 2022年4月にグループ全体で3名の女性が生産現場に入社、配属。また、女性管理職1名、監督職2名が新たに昇格。2021年4月には外国人留学生1名を採用し、母国現法に駐在員として派遣。
- ② 社内活性化を目的に評価制度、提案制度の見直しを行い運用開始。
- ③ 海外子会社から日本への社員派遣（出向）を通じ、人事交流を活性化。

■ 海外販売数量の回復と販売拡大

- 販売量回復と販売拡大のための新たな取り組み、不採算取引の見直しによる収益改善を推進し、営業利益率10%を目指す
- SUNSCO:国内販売比率を更に高め(50%以上)、収益基盤を強固に第2冷延設備の稼働によるコスト削減と品質の向上
家電向け鋼板の製造販売など新商品分野の開拓



- ① 市況が低迷しており、販売数量回復は難しい状況。不採算取引の見直しや高付加価値品の販売による収益改善を各社推進中。
- ② SUNSCO社においては、現地大学での性能比較評価やセミナーの開催等により品質の優位性を国内代理店にPR中。家電向け鋼板は、ユーザーでの品質評価を実施中。第2冷延設備は、高品質な製品を安定的に生産できているが、コスト削減効果については、販売数量減によるコストアップをカバーできていない状況。

■ 自動車二輪事業、EV化への対応

- インド/KUMAについて、排気管以外の製品需要の捕捉と投資の検討を開始



- ① インドKUMA社にて、排気管用途に代わる新たな需要を開拓中
- ② SUNSCOにて、二輪EV用向けに鋼管を供給開始。

■ 丸ステンレスの海外進出やM&Aの検討



- ① 米国テキサス州に半導体用BA管製造子会社 MST-X社を設立。建設工事中。

■ 海外でのESGの取組



- ① MAC では、全体の約30%に再生可能エネルギー由来の電力を使用。
- ② インドKUMA社にて自社工場に太陽光発電システムを導入検討中。
- ③ SUNSCOにて太陽光発電導入、及びLPGからLNGへの切り替えによるコストダウンと利便性を検討中。

■ 国内外でのM&Aを含めた事業投資の積極的な検討を継続



- ① 引き続き国内外で検討中。

■ その他

- 旧本社ビルなどの遊休土地、建物の利活用
- オープンイノベーションの展開



- ① 旧本社ビルの耐震工事中。
- ② 労働力不足、技能伝承、多様な働き手、働き方に対応する為、設備メーカーと協働で自動化、省力化、デジタル化を盛り込んだ次世代造管設備を、名古屋工場に導入検討中。

VI . トピックス

会社名 **MARUICHI STAINLESS TUBE TEXAS CORPORATION**

設立 2022年8月

資本金 約75.0Mil\$ (約101.3億円)段階的に出資予定。

株主構成 設備投資に必要な資金(約75.0Mil\$)迄、増資した時点の出資金

	丸一鋼管	当社	その他	合計
出資金(億円)	38.0	43.0	20.3	101.3
出資金(Mil\$)	28.1	31.9	15.0	75.0
出資比率	37.5%	42.5%	20.0%	100.0%

為替レート 135 円/\$

事業概要 主に半導体向けBA管の製造・販売。BA母管は、当社(下関)から供給する。

事業規模 売上高：約57億円、営業利益：約10億円 (2024年末 9万本/月)

所在地 米国Texas州SeguinにBA管製造工場を建設予定
(住所)1621 8th street Seguin, Texas 78155

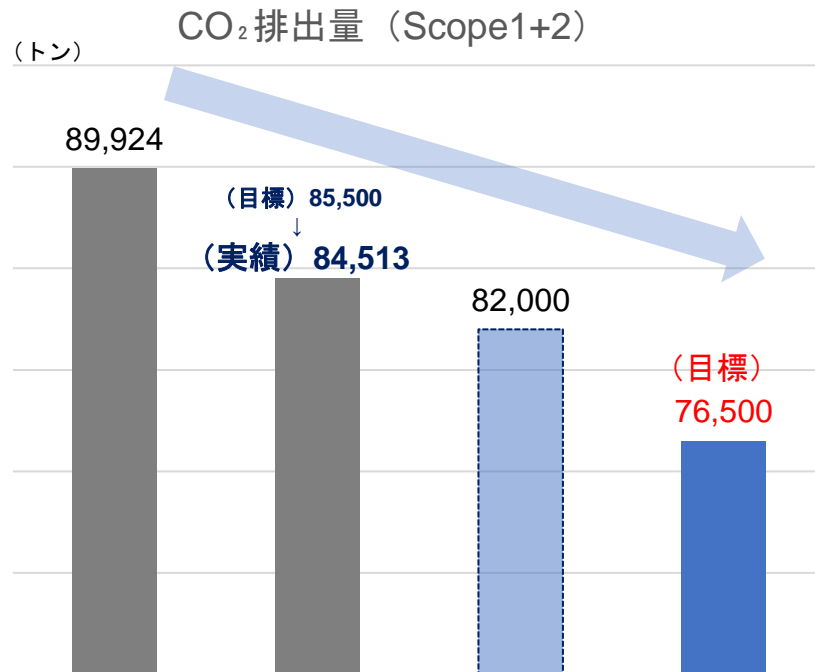
役員体制 丸一ステンレス鋼管から社長(手島 修 営業部 部長)を派遣する。

省エネ活動によるCO₂削減

- ①天井照明の省電力(LED)化(▲255 t /年)
- ②コンプレッサーエアーの削減(▲70 t /年)
- ③省エネ機器への更新(▲14 t /年)
 - ・ 油圧ユニットを省エネタイプに更新
 - ・ 高効率ボイラーへの更新
 - ・ 高効率トランスへの更新
 - ・ 高周波溶接機更新

再生可能エネルギー由来電力購入によるCO₂削減

- ・ 堺工場 : ▲4,245 t /年
- ・ 詫間工場 : ▲5,718 t /年



2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期

※2021年度は、生産量増加によるCO₂排出量増加分を上回るCO₂排出量の削減ができ、削減量が目標を上回る結果となりました。

自家使用太陽光発電の導入によるCO₂削減

丸ステンレス鋼管(株)の事務所屋根に太陽光発電設備を設置し、事務所の電力に使用（8月末稼働）（▲17 t /年）

省エネ活動によるCO₂削減

- ①丸ステンレス鋼管のスルータイプ炉を更新（▲87 t /年）
- ②天井照明の省電力（LED）化（▲400 t /年）
- ③コンプレッサーエアーの削減（▲70 t /年）

再生可能エネルギー由来電力購入によるCO₂削減

- ①堺工場使用電力の50%（2021年4月～）（▲4,000 t /年）
- ②詫間工場使用電力の40%（2021年4月～）（▲5,100 t /年）
- ③東京事務所使用電力の100%（2022年4月～）（▲12 t /年）



廃棄物削減

産業廃棄物処分に係るCO₂排出削減を目的として、事業活動に伴って発生する産業廃棄物を前期比3%削減する目標を設定し取組んでおります。

上半期の廃棄物量は、前年比2%の削減となりました。引き続き、廃棄物削減に取り組んで参ります。

作業環境改善（暑さ対策）

夏場の熱中症防止策として、名古屋工場と東京工場の建屋天井に大型ファンを設置しました。ファンの回転で発生する微風により、体感温度が約3~4℃低下するため、作業者からは涼しく感じるとの評価を得ております。今後他工場への展開を進めて参ります。

切断ガスを低炭素ガスに転換する事によるCO₂削減

工場でガス切断で使用しているアセチレンガスを水素とエチレンの混合ガス（岩谷産業製ハイドロカット）に変更し、CO₂排出量を約84%削減する取組みを進めております。（▲約30 t /年）



© 2022
Iwatani
Corporation.
All Rights
Reserved.

TCFD提言に基づく情報開示

当社グループは、昨今の気候変動問題が地球レベルでの気候危機に相当し、重要な経営課題の一つとの認識の下、地球上のすべてのステークホルダーに配慮した事業活動を行うことによって、パリ協定が示す「平均気温の上昇を1.5℃未満に抑えた世界」の実現を目指しております。そのため、当社グループは「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に賛同を表明し、同提言に基づき、「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」についての情報開示を致しました。

ガバナンス

気候関連のリスク及び機会に係る組織のガバナンス

- 当社グループの気候変動に係る諸課題への対応のため、国内外グループ各社に環境管理責任者を置き、環境最高責任者(当社社長)をヘッドとする丸一グループ・カーボンニュートラル環境委員会を設置。
- 環境最高責任者は、丸一グループ全体におけるカーボンニュートラルについての方針及び施策を決定し、その進捗について取締役会へ報告(半期に1回以上)。

戦略

組織の事業・戦略・財務計画に対する気候関連のリスク及び機会の影響

- IPCCやIEAが公表する4℃シナリオおよび2℃未満シナリオを用いてリスク及び機会を分析。
- リスク及び機会を特定し、定量分析が可能な項目については2030年度時点における財務インパクトを試算。

リスク管理

気候関連のリスクを識別・管理・評価するプロセス

- 丸一グループ・カーボンニュートラル環境委員会が気候関連のリスクを識別し、財務インパクトへの影響度を評価、管理。
- コンプライアンス委員会が全社リスクと上記気候関連のリスクの相対的な評価を行い、発生頻度や財務インパクト等から重要なリスクを特定し定期的にもモニタリング。
- リスク管理状況を取締役会へ報告し、リスクへの対応策を経営戦略や中期経営計画へ反映。

指標と目標

気候関連のリスク及び機会を評価・管理するための指標と目標

- 2030年に国内丸一鋼管グループのCO₂排出量を46%削減(2013年度比)。
- 2050年にカーボンニュートラルの実現を目指す。



分類	事業インパクト	評価	対応策
リスク			
移行	原材料コストの変化 炭素税導入及びサプライヤーの操業コスト増加による原材料コストの増加	大	<ul style="list-style-type: none"> • 再生可能エネルギー由来電力の導入 • 太陽光発電設備の自家使用
物理	異常気象の激甚化 生産拠点での操業やサプライチェーンでの物流機能の停止	大	<ul style="list-style-type: none"> • 工場建屋入口に防潮扉設置 • 電気制御盤等の高上げ
機会			
移行	発電プラント工事の増加 各種再生エネ発電所の設置や配電網の整備による鋼製電線管の需要増加	大	—
	水素需要の拡大 水素エネルギーの普及に伴いVCFや水素STに使用するシームレスステンレス鋼管の需要増加	中	—

TCFDの提言に基づく情報開示は、下記に掲載しております。

[\[参考\] 丸一鋼管HP「気候変動への取り組みとTCFD対応」](#)

外部評価・第三者保証

<CDP評価>

当社は、昨年の回答で気候変動ではスコアBー、水セキュリティではスコアCの評価を得ました。今年もCDP質問書へ回答しており、今後も積極的な情報開示に努めて参ります。

<排出量検証 (JACO) >

当社では、CO2排出量の信頼性・透明性の観点から、スコープ1,2及びスコープ3のCO2排出量について、今年初めて第三者検証を実施し日本環境認証機構 (JACO)から認証を取得しました。

※スコープ1,2及びスコープ3の数値につきましては、ESGレポート (2022年度)に記載しております。

[参考] [丸一鋼管ESGレポート2022](#)



温室効果ガス排出量 検証報告書

丸一鋼管株式会社 室中

2022年6月16日
株式会社 日本環境認証機構
東京都港区赤坂 2-2-19
代表取締役社長 小野寺浩章

株式会社 日本環境認証機構 (以下、JACO) は、国内の団体会社を含む丸一鋼管株式会社 (以下、組織) により提供された温室効果ガス排出量に関して検証を行った。

1. 検証の目的及び範囲
当社は、組織算定した2021年度 (2021年4月1日付 2022年3月31日まで) の温室効果ガス排出量検証について検証を行った。
1) 範囲の22年度及びスコープ1及びスコープ2 温室効果ガス排出量
2) 組織の支配に基づきスコープ3 温室効果ガス排出量
組織内部での検証結果及び JACO の検証結果に基づき、組織は検証されたデータの一部を検証した。算定書を作成し、温室効果ガス排出量に関する責任は組織あり、JACO の責任は、独立の立場から算定書に記載された温室効果ガス排出量に対する責任を負得ずることにある。

2. 検証手続
当社は、ISO 14064-3:2019 Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statementsに準拠して検証を行った。以下の検証の過程を一覧し、以下の内容を履行した。
- 温室効果ガス排出量の検定。算定書と責任の範囲の関係を明示したプリンタアウトを組織により検証。
- 温室効果ガス排出量決定方法。算定書と責任の範囲の関係を (データ) に、算定基準の検定方法、データの測定方法、組織が採用した認定、その他関連するデータの検定、算定書と責任の範囲の検定。
- 温室効果ガス排出量の正確性を検証するための検定 (データ) のサンプリングによる検証。

3. 検証の信頼性
当社は算定書の検証と一致した以上、平均値と検定結果の標準を基に、組織が管理する算定結果に基づく組織の温室効果ガスに関する責任が以下であることが検証は発見された。
- 算定 (正確性を欠いて、対象範囲における温室効果ガス排出量データ及び検定結果の一致していない、組織が算定した温室効果ガス排出量算定方法に従って準備していない)。

検証された温室効果ガス排出量
スコープ1: 1,244,996 tCO2e、スコープ2: 60,018 tCO2e (再生可能エネルギーによる温室効果ガス)
スコープ3: 1,665,046 tCO2e
スコープ3 排出量の内訳は以下の通り。
ガソリン: 1,529,390 tCO2e、ガソリン: 16,545 tCO2e、ガソリン: 31,023 tCO2e、
ガソリン: 37,070 tCO2e、ガソリン: 3,013 tCO2e、ガソリン: 6,183 tCO2e、
ガソリン: 586 tCO2e、ガソリン: 1,024 tCO2e、ガソリン: 10,44,090 tCO2e、
ガソリン: 1,217 tCO2e

以上

[検証の独立性、客観性] 組織と JACO 検証チームは、特定の関係を持っていないと検証が行われた。

<EPD発行>

当社グループの北米3社(MAC、MOST、LEAVITT)では、米国/UL社より丸管及び角型鋼管についての環境製品宣言(EPD)の認証を取得しています。今後も積極的に自社製品におけるライフサイクルアセスメントを実施するとともに、製品ライフサイクルの観点での環境負荷低減に努めて参ります。

ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION
FABRICATED HOLLOW STRUCTURAL SECTIONS
MARUICHI LEAVITT PIPE AND TUBE

Manufactured in Chicago, IL, Maruichi Leavitt Pipe and Tube is a subsidiary of Maruichi Steel Tube. All steel products are produced in the USA. Maruichi Pipe and Tube is a leading manufacturer of hollow structural sections (HSS) for the steel pipe and tube industry. We are proud to have earned the ISO 14064-3:2019 certification for our HSS products. Maruichi Leavitt Pipe and Tube is committed to providing high-quality products and services to our customers. For more information, please visit our website at www.maruichipe.com.

CERTIFIED
ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION
GREENHOUSE GAS EMISSIONS

ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION
HOLLOW STRUCTURAL SECTIONS
MARUICHI AMERICAN CORPORATION

Manufactured in Chicago, Illinois, Maruichi American Corporation is a subsidiary of Maruichi Steel Tube. All steel products are produced in the USA. Maruichi American Corporation is a leading manufacturer of hollow structural sections (HSS) for the steel pipe and tube industry. We are proud to have earned the ISO 14064-3:2019 certification for our HSS products. Maruichi American Corporation is committed to providing high-quality products and services to our customers. For more information, please visit our website at www.maruichipe.com.

CERTIFIED
ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION
GREENHOUSE GAS EMISSIONS

<ポイント>

- ①社員が活躍する環境づくり（労働環境整備・新規施策追加）
- ②DX推進による業務効率化

社員が活躍する環境づくり

職場環境の整備を継続推進

女性社員が働きやすい設備へのリニューアルに加え、制度面では2022年9月に改正された育児休業法にともない、社内報による周知を進め、社員のワークライフバランスを両立できる働き方を推奨。

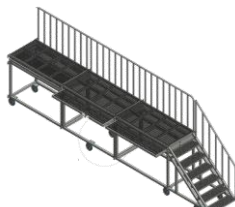


社内報「MARUICHI通信」

工場内作業の安全・効率をサポート

当社では、労働安全災害を防止するため定期的な安全衛生活動を展開。子会社のアルファメタルが荷役作業の安全と効率化に資するプラットフォーム「Safetyプラットフォームα」を開発し、労働安全及び災害の防止に貢献。

（参考）[Safetyプラットフォームα](#)



Safetyプラットフォームα

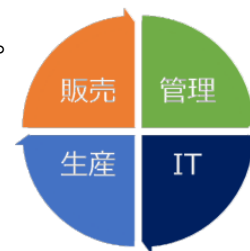
DX推進による業務効率化

①基幹システムの再構築

現在導入されている基幹システム群を再構築すべく、全社横断プロジェクトを推進中。

その一環として、2022年9月に社内情報共有ソフトのクラウド化を実施。海外拠点でも利用可能になり、よりタイムリーな情報共有体制を確立。

全部門共通の総合プラットフォームを構築



②生産技術・品質向上の追求

導入完了した「板面検査へのAI導入」をはじめとして、製造業務においてもDX化を推進し、生産技術の継承や多様な働き方に対応すべく、各設備や作業面での自動化による省力化及び安全確保、品質向上などを旨とする。

（参考）[丸一鋼管 ESGレポート2022年版](#)

<ポイント>

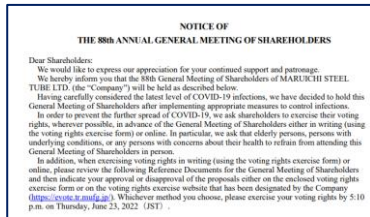
- ①株主総会における情報提供施策の増加
- ②2023年3月期 中間決算時における進捗状況

株主総会における情報提供施策の増加

株主総会招集通知の英訳（補充原則1-2④）

海外投資家の議決権行使に係る環境整備として、株主総会招集通知の英訳を実施。

（参考）英訳招集通知：NOTICE OF THE88th ANNUAL GENERAL MEETING SHAREHOLDERS



インターネットによる株主総会ライブ配信

遠方の株主様にも株主総会の模様をご覧頂けるように、「第88回 定時株主総会」からインターネットを通じたライブ配信を実施。（会社法に定める「出席」には該当しません。）



2023年3月期 中間決算時における進捗状況

①経営の公平性・透明性の確保

取締役スキルマトリックス公開

2022年6月公開
（参考）[ガバナンス体制](#)

②役員報酬制度改革

業績連動型株式報酬（譲渡制限付き）導入

2022年7月開始
（参考）[ニュースリリース](#)

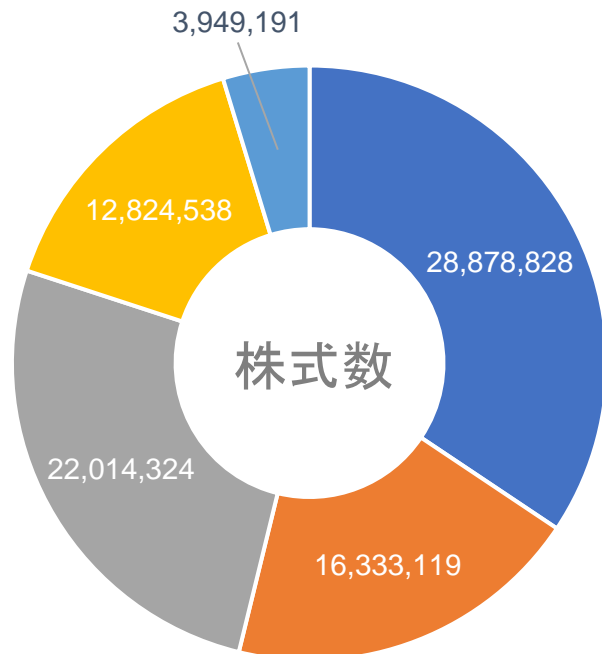
③BCPの整備・更新

丸一鋼管(株)におけるBCP制定推進

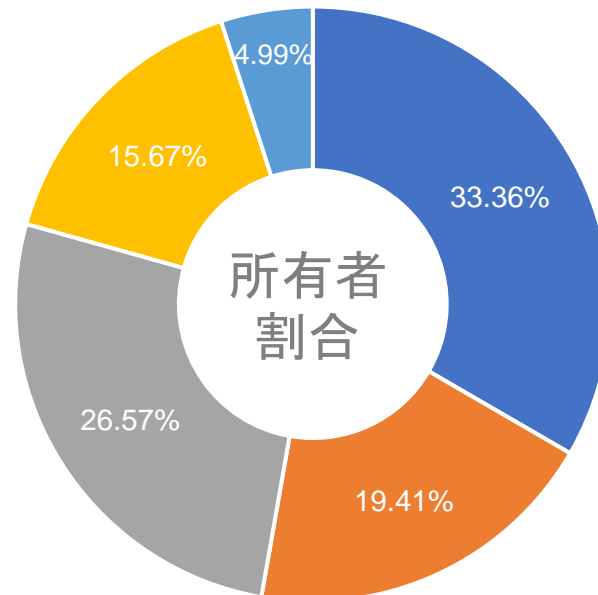
2024年3月期以降に、新規制定予定

VII. 補足資料

(参考資料) 株主構成変化



■ 金融機関 ■ 国内法人 ■ 外国人 ■ 個人その他 ■ 自己名義



■ 金融機関 ■ 国内法人 ■ 外国人 ■ 個人その他 ■ 自己名義

(参考資料) 丸管グループの特色

- わが社は、パイプのリーディング・カンパニーとして、すぐれた製品を供給し顧客の信頼に応えることにより、社会に貢献することを使命とします。
- わが社は、株主、取引先、従業員、地域社会等、すべてのステークホルダーを尊重します。
- わが社は、従業員一人一人の知恵と情熱と行動により、製品の信頼性、技術力、販売力を向上させ、将来に向けての成長エネルギーと新しい価値の創造を推進します。
- わが社は、すべての従業員にとって、その人生を託すにふさわしい、素晴らしい、夢にあふれた会社であり続けます。

アジア



KUMA社 (インド)
マネサール工場



KUMA社 (インド)
グジャラート工場



KUMA社 (インド)
バンガロール工場



MMP社 (佛山
武漢工場 (中国)



MMP社 (天津)
(中国)



MMP社 (佛山)
(中国)



SUNSCO社
(ベトナム)



SUNSCO (ハノイ) 社
(ベトナム)



J-スパイラル社
(ベトナム)



MPST社
(フィリピン)



ISTW社チカラ工場
(インドネシア)



ISTW社ジャカルタ工場
(インドネシア)



ISTW社セマラン工場
(インドネシア)

北米



MOST社
(アメリカ)



MNT社
(アメリカ)
MST-X社
(アメリカ)



Leavitt社
(アメリカ)



MAC社
(アメリカ)



Alphamex社
(メキシコ)



MARUICHIMEX社
(メキシコ)



需要地 生産体制

鋼管第一主義

多種製品主義

材料製造加工

自主独立経営

健全な財務体質

独自販売体制の採用

環太平洋での事業展開

需要地生産体制

関連会社を含め北海道から九州まで 12 工場を展開しています。このことはユーザーへのサービス向上をはじめとして、流通コストの削減にも大きく貢献しています。

多種製品主義

ユーザーの多様なニーズに対応するために、多種製品を提供しています。

材料製造加工

詫間工場で加工・処理された最適品質の鋼帯が、丸一グループの各工場で使用されています。

自主独立経営

いずれの系列にも偏らない自主独立の経営を行っているため、仕入・販売先に関して制約を受けることはありません。従って常に最大利益を追求する事業展開が可能となっております。

健全な財務体質

健全な財務体質が、強力なバックボーンとなっています。

鋼管第一主義

鋼管及びその周辺業務を展開しています。

独自販売体制の採用

製品販売は「総合商社」「丸一鋼販」の2ルートを通じて行っています。丸一鋼販は自前倉庫を持ち、在庫販売も行っています。このシステムにより、顧客のニーズや需要動向・価格動向がビビッドに丸一鋼管に吸い上がるため、市場に敏感な経営戦略を常に立案することができます。

環太平洋での事業展開

ホットコイルや製品の需給市況等の潮流が把握しやすくなっています。

5. 沿革

1926	自転車部品製造の丸一製作所を発足
1935	自転車鋼管の製造を始める
1940	丸一鋼管工場と改称
1948	株式会社丸一鋼管製作所を設立
1956	大阪出張所を改組し、丸一鋼版株式会社を設立
1957	大阪工場を新設
1958	東京事務所を開設
	米国アビー・エトナ社製の電気溶接製管設備を輸入し、電縫管メーカーに転換
1960	丸一鋼管株式会社と商号変更
	名古屋事務所開設
1961	東京工場を新設
1962	東京・大阪両証券取引所市場第二部に上場
1964	東京・大阪両証券取引所市場第一部に上場
	福岡事務所を開設
1965	堺工場を新設
1966	名古屋工場を新設 (昭和59年現名古屋工場へ統合)
	広島事務所を新設
1970	北海道丸一鋼管株式会社を設立
	札幌事務所を開設
1971	インドネシア ISTW社を設立
1972	特品工場を新設
	大阪事務所を開設
1973	東京工場第二工場を新設
1974	四国丸一鋼管株式会社を設立
	九州丸一鋼管株式会社を設立
1977	名古屋第二工場(現名古屋工場)を新設

1978	本社を大阪市西区北堀江に移転
	アメリカ MAC社を設立
1989	詫間工場を新設
1998	北海道丸一鋼管株式会社の札幌工場を苫小牧工場に統合
2000	新広島事務所・倉庫完成
2001	詫間工場に焼鈍設備を新設
2002	東京第二工場新倉庫を建設
2003	名古屋工場内に物流倉庫及び加工工場を増設
2005	JFE大径鋼管の照明柱事業を継承
2006	名古屋工場寸法切り倉庫棟竣工
	中国 MMP社操業開始
	東洋特殊鋼業へ出資
	ベトナム SUNSCO社へ出資
2007	名古屋工場0.5インチ増設
	堺工場 第6工場の新設 設備稼働
	詫間工場 メッキ炉改造工事 酸洗ライン トリミング設備設置
2008	SUNSCO社・LEAVITT社 連結子会社化
	堺工場リニューアル工事完了
2009	インド KUMA社 子会社化
	セイケイ 堺製造所 稼働
2010	アルファメタル 連結子会社化
	SUNSCO社 1.6インチ増設
	SUNSCO社 HANOI社 操業開始
	ベトナム J・スパイラルスチールパイプ社へ出資
2011	中国 MMP天津社 稼働
	東京第二工場 ステンレス鋼管工場を新設
	堺特品工場 第2工場を増設
2012	中国 MMP社 武漢工場新設
	東京第二工場 第3工場を新設
	メキシコ Maruichimex社設立

2013	詫間工場 メガソーラー発電所 稼働
	SUNSCO社 第2 CGL・CCL稼働
2014	東京工場 集約完了
	Maruichimex社 連結子会社化
2015	MOST社 連結子会社化
2016	大阪工場 集約完了
2018	フィリピン MPST社 設立
	本社、大阪事務所、営業部電材課、 丸一鋼版本社、同大阪営業所を大阪中央区難波に移転
2019	フィリピン MPST社 操業開始
2020	コベルコ鋼管株式会社の株式を取得 丸一ステンレス鋼管株式会社に社名変更
2021	SUNSCO社 第2冷延ミル稼働
	米国GENEVA社 連結子会社化
2022	米国テキサス州にMaruichi Stainless Tube Texas Corporation (MST-X)を設立

丸一鋼管グループの方向性について

丸一鋼管グループは、今般作成した第6次中期経営計画を確実に推進することにより、100年企業を目指して経営基盤を確固なものとし、また環境への配慮を更に進め、ゼロカーボンに向けた体制も早期に確立し、長期安定的な成長によるサステナブル企業グループを目指します。

Everywhere, MARUICHI

どこにでもある、 たったひとつの会社に。

「どこにでもある」には、以下の3つの意味が込められています。

- ①生活のどこにでもある（くらしのなかの様々な場面で丸一鋼管の製品が活躍している）
- ②日本のどこにでもある（需要地生産体制のもと、全国各地に生産販売ネットワークがある）
- ③世界のどこにでもある（加速するグローバル展開により、世界各地に拠点がある）

「どこにでもある」、唯一無二でユニークな「たったひとつの」会社へ。

01 × 100

MARUICHI × HUNDRED

事業の深化と進化による収益性の向上

- デジタルトランスフォーメーション（DX）の導入
- オープンイノベーションの推進
- 社会課題解決を意識したグローバル展開の加速

新領域への果敢な挑戦

イノベーションを生む組織への変革

丸一鋼管グループビジョン

01 × 100



MARUICHI
2030 VISIONの
全体像をご紹介します。

注意事項

本資料の計画・見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの計画・見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。